

Canon

RF

24-105mm F4-7.1 IS STM

使用説明書

JPN

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノン RF24-105mm F4-7.1 IS STMは、EOS Rシリーズカメラ用の標準ズームレンズです。

- ISはImage Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- STMはStepping Motor（ステッピングモーター）の略称です。

本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる可能性のある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

カメラのファームウェアと カメラアプリケーションについて

お使いのカメラのファームウェアと、対応したカメラアプリケーションは最新のバージョンにしてください。それらの最新バージョンの有無やアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。



カメラ*のファームウェアが対応したバージョンでない場合、次の制限があります。

- 拡大表示できません。
- その他、カメラの動作に不具合が生じることがあります。

* 以下のカメラにおいて
EOS R、EOS RP

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や障害の発生を防ぐためにお守りください。

 **警告** 死亡や重傷を負う可能性がある内容です。

- レンズを通して、太陽や強い光源を直接見ないでください。失明の原因となります。
- レンズキャップを取り付けていないレンズを、日光下に放置しないでください。レンズに入った太陽光が集まり、故障や火災の原因となります。

 **注意** 傷害や、製品以外の物的損害を負う可能性がある内容です。

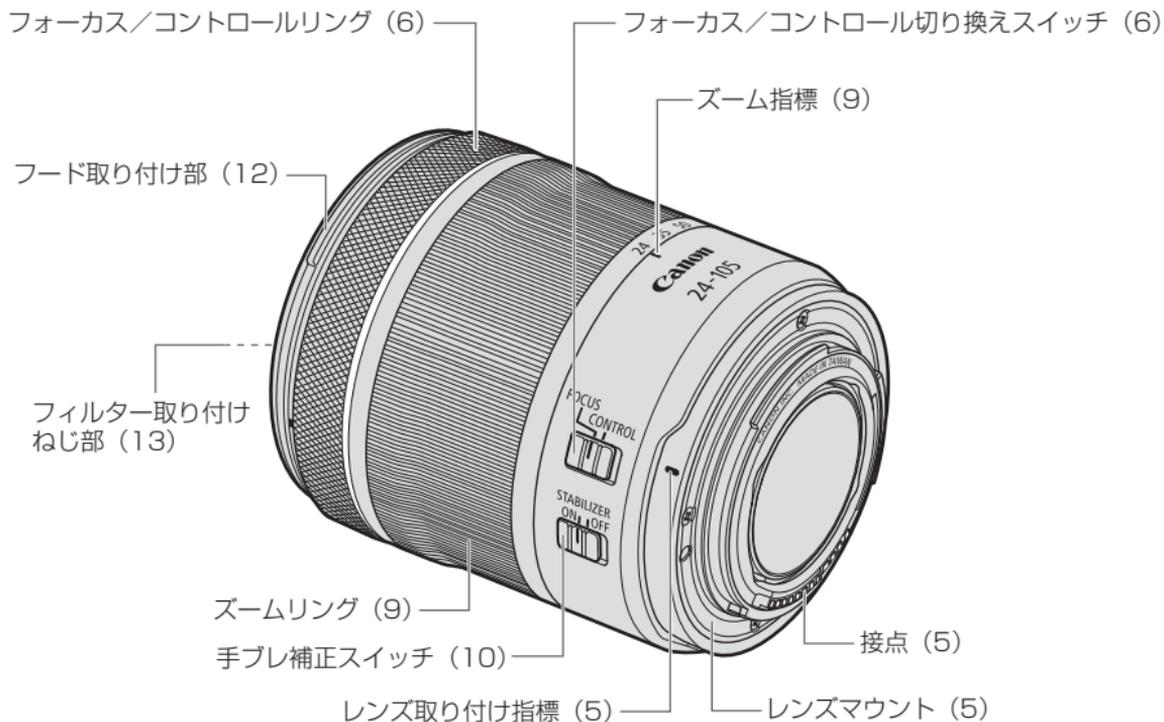
- 製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。製品に触れるとやけどやけがの原因となります。
- 製品の内部には手を入れないでください。けがの原因となります。

一般的なご注意

取り扱い上のご注意

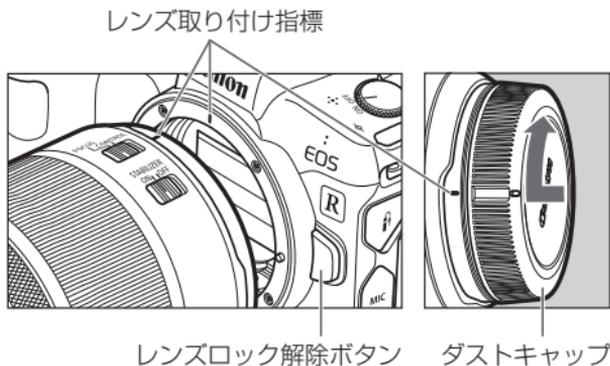
- 日光下の車の中など、高温となる場所に製品を放置しないでください。故障の原因となります。
- レンズを寒い場所から暖かい場所に移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かい場所から寒い場所に移すときも、同様にしてください。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

各部の名称



● (**) の ** 部は参照ページを示しています。

1. レンズの取り付け／取り外し



- レンズの取り付け/取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。
- レンズを取り外す前に、レンズキャップを取り付けてください。
- レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、レンズマウント側を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。ダストキャップを取り付けるときは、レンズ側とダストキャップ側の取り付け指標を合わせてください。
- 接点に傷、汚れ、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因になり、動作不良を起こすことがあります。汚れなどが付いたときは、柔らかい布で接点を清掃してください。

レンズの取り付け方

レンズ側とカメラ側のレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。

レンズの取り外し方

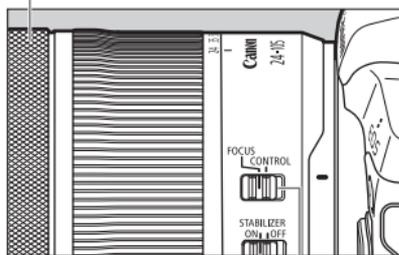
カメラのレンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを反時計方向に回します。回転が止まるまで回してから取り外します。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

2. フォーカス / コントロールリング

フォーカス/コントロールリングは、フォーカスリング、もしくはコントロールリングとして使うことができます。

フォーカス/コントロールリング



フォーカス/コントロール切り換えスイッチ

フォーカスリングとして使う

フォーカス/コントロール切り換えスイッチを FOCUS にします。フォーカスモード (AF/MF) はカメラ側のメニューで設定します。

オートフォーカス (AF) で撮影するときは、カメラのフォーカスモードを [AF] にします。

マニュアルフォーカス (MF) で撮影するときは、カメラのフォーカスモードを [MF] にし、フォーカスリング (フォーカス/コントロールリング) を回してピントを合わせます。

- このレンズにフォーカスモードスイッチはありません。
- フォーカスリング (フォーカス/コントロールリング) を急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。

- このレンズのフォーカスリング (フォーカス/コントロールリング) は電子式です。
- カメラの AF 動作が [ONE SHOT] のとき、AF のあとシャッターボタン半押し状態で、マニュアルフォーカスができます。(フルタイムマニュアルフォーカス) ただし、カメラの設定変更が必要です。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

コントロールリングとして使う

フォーカス/コントロール切り換えスイッチを CONTROL にします。コントロールリングの機能はカメラ側のメニューで設定します。シャッター速度や絞り数値の設定など、カメラでよく使う機能を割り当てることができます。コントロールリングの使い方について、詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

3. マニュアルフォーカス (MF) を使ったクローズアップ撮影について

このレンズは、カメラのフォーカスモードを [MF] にすると [AF] の時よりもさらに被写体に近づいて大きく撮影できます。(テレ端を除く)

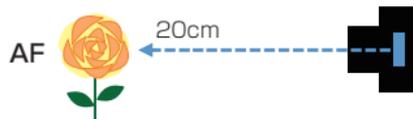
ワイド端での撮影距離範囲は次のようになります。

- 【AFでピントが合う範囲】：20cm～∞
- 【MFでピントが合う範囲】：13cm～∞

13cm以上20cm未満の範囲は、MFでのみピントを合わせることができます。【MF専用範囲】

- 撮影距離とは、カメラ上面の [] (撮像面マーク) から被写体までの距離のことです。
- AF時およびMF時の最短撮影距離はレンズの焦点距離によって変わります。

ワイド端での例



AF

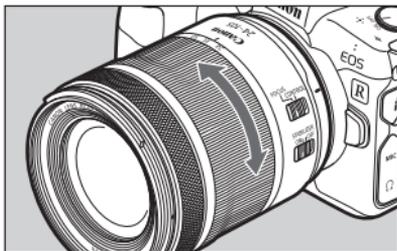


MF

マニュアルフォーカス (MF) を使ったクローズアップ撮影について

- マニュアルフォーカス (MF) を使うときは、フォーカス/コントロール切り換えスイッチをFOCUSにしてください。
 - 【MF専用範囲】 にピント位置があると次の制限事項があります。
 - ・ カメラのフォーカスモードを [MF] から [AF] に切り換えることができません。切り換えるためには、フォーカスリングを無限遠方向に回して、ピント位置を【AFでピントが合う範囲】まで移動させてください。
 - ・ 【AFでピントが合う範囲】 よりも画質が低下します。
撮影後の映像を確認しながら撮影することをおすすめします。
 - ・ フォーカスガイド機能*1の検出精度が低下します。フォーカスガイド機能は【AFでピントが合う範囲】でお使いください。(*1 EOS R、EOS Ra)
 - ・ パソコンやスマートフォンからのリモート撮影でピントの操作はできません。
-
- カメラのフォーカスモードが [AF] のときでもフルタイムマニュアルフォーカス機能を使って【MF専用範囲】での撮影ができます。ただし、カメラの設定変更が必要です。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

4. ズーミング

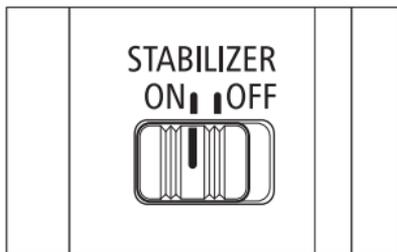


ズームリングを手で回してズームリングします。

- **!** ピント合わせはズームしたあとで行ってください。ピントを合わせてからズームすると、ピント誤差が生じることがあります。
- ズームリングを急回転させた場合、一時的にピントがボケることがあります。
- ズーミングのとき、レンズの前側とフォーカス/コントロールリングの間に指などをはさまないように注意してください。

5. 手ブレ補正機能

撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮りなど）に応じた手ブレ補正を行います。



手ブレ補正機能を使用するときは、手ブレ補正スイッチをONにします。

- 手ブレ補正機能を使用しないときはOFFにします。

- ⚠ ● 被写体が動くことによって生じるブレは補正できません。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 三脚を使用した場合は、手ブレ補正スイッチをOFFにすることをおすすめします。
- 一脚を使った場合も手ブレ補正は働きますが、撮影条件によっては補正効果が十分に得られないことがあります。

- 📷 ● 静止した被写体の撮影では、すべての方向の手ブレを補正します。
- 水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。

手ブレ補正機能

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影に適しています。



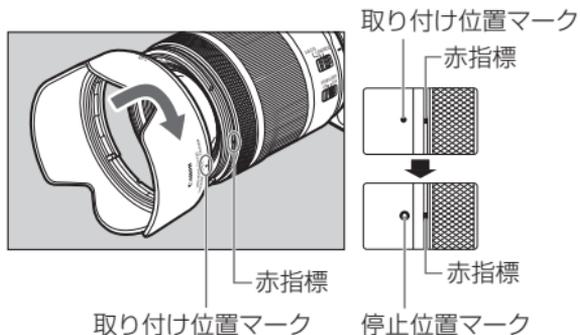
- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボが使えない場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使えない状況



- 自動車や鉄道などの流し撮り

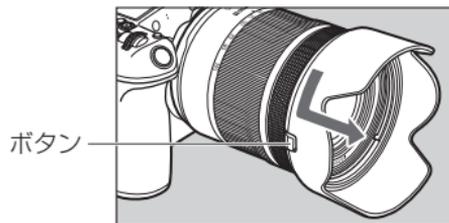
6. フード（別売）

専用のフードは、不要な光をさえぎるとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



フードの取り付け方

フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標を合わせ、フードを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。



フードの取り外し方

フードの側面にあるボタンを押しながら、フードの取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標が合うまで、フードを矢印の方向に回して取り外します。
収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。



- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元付近を持って回してください。フードの先端付近を持つと変形して回らなくなることがあります。

7. フィルター（別売）

フィルターは、レンズ先端のフィルター取り付けねじ部に取り付けます。



- フィルターは1枚のみ使えます。
- 偏光フィルターはキヤノン円偏光フィルター PL-C Bを使ってください。
- 円偏光フィルターの調整をするときは、フードを取り外してください。

主な仕様

焦点距離・明るさ	24-105mm F4-7.1
レンズ構成	11群13枚
開放絞り数値	F4-7.1 (1/3段表示)、F4-6.7 (1/2段表示)
最小絞り数値	F22-40 (1/3段表示)、F22-38 (1/2段表示)
画角	水平74°～19°20'、垂直53°～13°、対角84°～23°20'
最短撮影距離	AF時：0.2m (24mm時)、0.34m (105mm時) MF時：0.13m (24mm時)、0.34m (105mm時)
最大撮影倍率	AF時：0.4倍 (105mm時) MF時：0.5倍 (24mm時)
画界	AF時：約168×112mm (24mm、0.2m時) 約89×59mm (105mm、0.34m時) MF時：約71×47mm (24mm、0.13m時) 約89×59mm (105mm、0.34m時)
フィルター径	67mm
最大径×長さ	約76.6×88.8mm
質量	約395g
フード	EW-73D (別売)
レンズキャップ	E-67II
ケース	LP1116 (別売)

主な仕様

- レンズの長さはレンズマウント面からレンズ先端までの寸法です。
付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは寸法表示+24.2mmになります。
- 最大径×長さ・質量は本体のみの値です。
- クローズアップレンズ250D/500Dは使用可能なサイズがありません。
- 記載のデータはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- このレンズを使った多重露出撮影はできません。
- 連写中のズームングで、歪みが目立つ画像が撮影されることがあります。
- 開放絞りから絞りを1クリック分だけ変更したときに、絞り数値の表示が変化しないことがあります。この現象は絞り数値の表示上の制約によるもので、実際の露出制御は適切に行われます。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品の製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の機種への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、お手持ちの消耗品や付属品がご使用いただけなくなることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ

canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター

050-555-90002 (直通)

受付時間 (平日/土) 9:00 ~ 17:00

(12月31日から1月3日は、休ませていただきます。)

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-2111-9556をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon